

令和6年度 第2回岡崎市生涯学習推進委員会会議録

1 開催日時

令和7年1月27日 10時00分～11時15分

2 開催場所

図書館交流プラザ ホール

3 委員出欠状況

(1) 出席委員

益川 浩一 委員長（岐阜大学地域協学センター長・教授）

江良 友子 副委員長（愛知学泉短期大学准教授）

山田 美代子 委員（りぶらサポータークラブ副代表、市民協働推進委員）

葉山 栄子 委員（岡崎市社会教育委員、名古屋学芸大学非常勤講師）

平岩 亮人 委員（特定非営利活動法人 岡崎まち育てセンター・りた
統括管理責任者、市民協働コーディネーター）

矢田 綾子 委員（市民公募委員）

野澤 琳 委員（市民公募委員）

(2) 欠席委員

なし

4 事務局出席者

社会文化部

加藤 健一郎（部長）

手嶋 俊明（専門監）

中央図書館

谷端 健司（館長）、大村 しのぶ（副館長）、本多 正直（総務係長）

生涯学習課

丸本 洋乃（副課長）、尾崎 孝幸（総務係長）、岩田 弘志、太田 隼平

5 傍聴者

0名

6 社会文化部長挨拶（省略）

7 委員長選任

益川委員を委員長に、江良委員を副委員長に選任した。

8 委員長挨拶（省略）

9 議題

(1)岡崎市の生涯学習の状況について

(2)第3次岡崎市生涯学習推進計画の見直しについて

(3)アンケート調査の実施について

それぞれ事務局から説明した。

<以下、各委員の意見等>

(1) 岡崎市の生涯学習の状況について

委 員： 増加・減少の傾向、目指すのが増加なのか維持なのかという分析があればお聞きしたい。

事務局： 一覧の表にしたのは今回が初めてであり、比較はできていない。計測した数や分野が正しいのか、検討しながら把握していきたい。

委 員： 分析が進んだとき、課題について当委員会で審議できるとよい。

委 員： 催しの対象について、女性向け男性向けを分けて計測するというのは最近の風潮に馴染まないのでは。

事務局： それぞれが持つ課題を解決するための催しの必要性もあるため、男女に特化したものがどれくらいあるのか、把握する意味で区分した。

委 員： 対象として障害のある方とあるが、理想は健常者も障がい者も平等に参加できる状態である。また、外国人の方を対象とした取り組みが非常に少ないため、充実させてほしい。

事務局： 障がい者向けでない催しは障がい者が参加できないという意図ではなく、障がい者を対象とした講座や、主催者の意図として障がい者の参加を明確に想定している催しのみをカウントした。外国人を対象とした取り組みについては、今回集計したのは市政だよりに掲

載されたもののみのため、国際交流センターや学校などで行われる、外国人に向けての催しについても状況の可視化に向けて検討していく。

(2) 第3次岡崎市生涯学習推進計画の見直しについて
意見なし

(3) アンケート調査の実施について

委員： アンケートの送付・回収方法は紙のみか。

事務局： 現時点では紙のみを想定している。

委員： 少しでも回収率を上げるため、QRコード等、オンラインで返信できるようにすると回収率が上がるのではないか。

委員： 回答期間中に回答期限の通知を送付すると回収率が上がるのではないか。

事務局： 回収率を上げるため、検討する。

委員： 前は18歳以上でアンケートを取ったとのことだが、年齢別の回収率は出ているか。

事務局： 手元に資料がないので改めて皆様にお知らせする。

※委員会閉会后追加 事務局データ

	18-19 歳	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上	合計
配布数	305	667	419	436	388	324	360	3,000
回答数	117	156	157	151	193	165	195	1,134
回答率	38.36%	23.39%	37.47%	34.63%	49.74%	50.93%	54.17%	37.80%

委員： 問13から問15について、生涯学習についてのアンケートで地域に関する質問があるのはこういった趣旨なのか。

事務局： 地域的、社会的な課題を解決することも生涯学習活動の一環であると認識している。

委員： 学習を目的としてりぶらを利用する方も多いと認識している。
自主学習のためのスペース確保について調査してもらえないか。

事務局： 検討する。

委員： 図書館関連の質問で削除するものが多いがよいか。

事務局： 生涯学習に関する質問が趣旨であるため、施設利用に関する部分は削除する予定である。本委員会に加え、図書館協議会の意見も踏まえて検討する。

委員： 活動意欲に関する質問も削除が多いがよいか。

事務局： 他の質問で意欲について観測できると考え削除した。

委員： 現在活動している実態を把握することと、必要性があるが活動できていない内容を把握することがこの項目の肝であるように思う。そういったことが分析できるよう質問を作してほしい。

事務局： 検討する。

委員： ここ数年の市民活動や生涯学習の現場で顕著な変化としては「担い手の不足」があるように思う。生涯学習に参加する方目線だけではなく、生涯学習を主導する立場になる可能性がある人を可視化するための設問を作ってもいいのではないか。学びの循環の観点からも重要な事項である。

事務局： 検討する。

委員： 市民の中には「生涯学習」という言葉が難解だと感じる方も多いのでは。また、1年間取組がなかった方や関心がなかった方の声も拾ってほしい。

事務局： 生涯学習の定義をしっかりと示したうえで観測したいと考えている。また、1年間取組がない方、関心がない方の声も把握したく思っている。

10 連絡事項

事務局から本委員会の内容をフィードバックのうえ再度アンケート案を推敲し、再度提示したい、本委員会が閉会後でもお気づきの点があれば御意見をいただきたい旨の申し出をし、各委員に御了承いただいた。

会議終了